

カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う 津波における避難手段・緊急避難場所の課題と対策の方向性



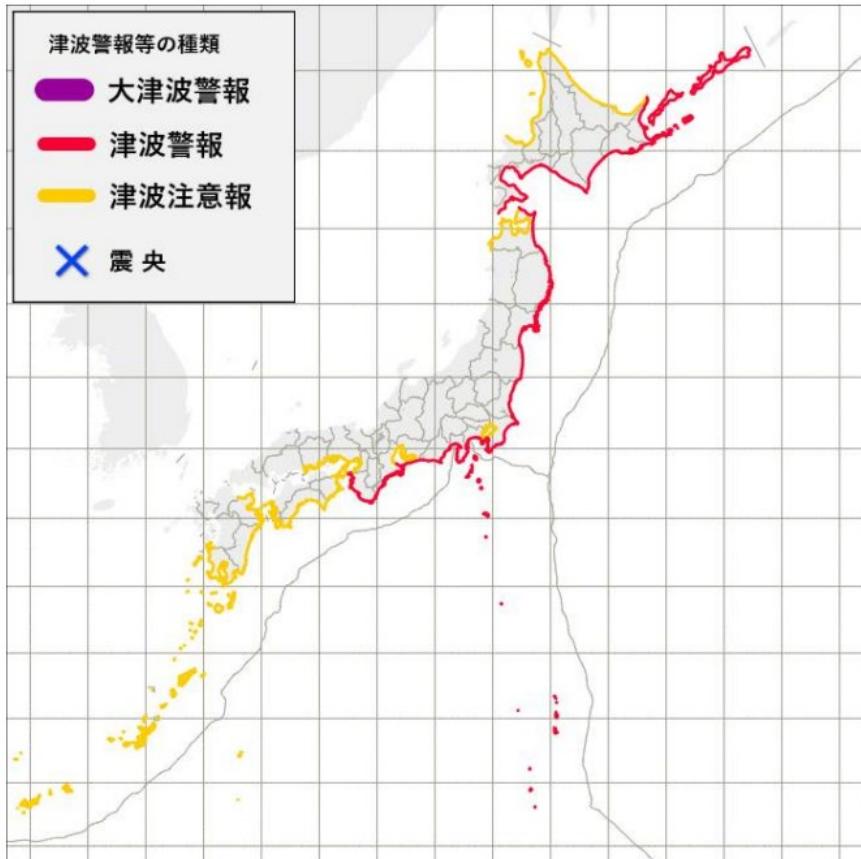
令和7年11月12日（水）
内閣府政策統括官（防災担当）付
参事官補佐（調査・企画担当）
中路貴夫

令和7年カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波 概要

- 2025年7月30日8時24分にマグニチュード8.8の地震がカムチャツカ半島東方沖で発生し、北海道の釧路市・釧路町・厚岸町・標津町・別海町で震度2を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度1を観測。
- 7月30日9時40分に太平洋沿岸を中心に津波警報を発表し、警戒を呼びかけ。岩手県久慈港で1.4m、東京都八丈島八重根で1.0mなど各地で津波を観測。その後、同日20時45分に津波警報を全て津波注意報に切り替え、津波注意報も7月31日16時30分に全て解除。

■津波警報・注意報の発表状況

7月30日09時40分発表



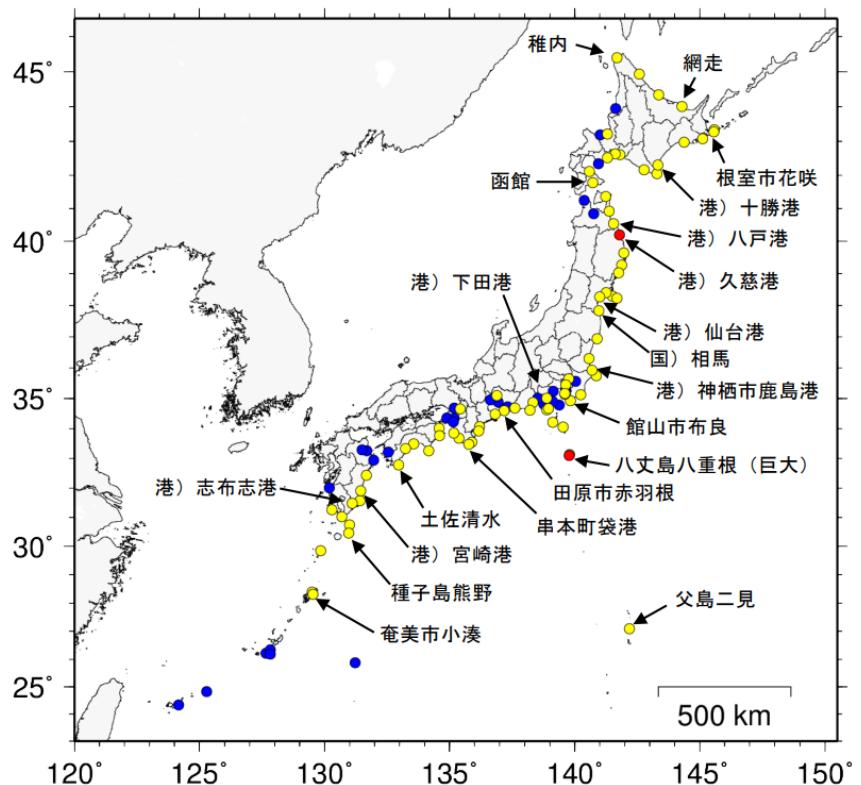
気象庁報道発表資料より作成

| 日時 | 警報種類 | 対象予報区 |
|-----------------|-------|--|
| 7月30日 8時37分 | 津波注意報 | 北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房、小笠原諸島、静岡県、三重県南部、和歌山県、宮崎県 |
| 7月30日 9時40分 | 津波警報 | 北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸中部、北海道太平洋沿岸西部、青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房、千葉県内房、伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾・三浦半島、静岡県、愛知県外海、三重県南部、和歌山県 |
| | 津波注意報 | 北海道日本海沿岸北部、オホーツク海沿岸、青森県日本海沿岸、陸奥湾、東京湾内湾、伊勢・三河湾、大阪府、兵庫県瀬戸内海沿岸、淡路島南部、岡山県、徳島県、愛媛県宇和海沿岸、高知県、大分県瀬戸内海沿岸、大分県豊後水道沿岸、宮崎県、鹿児島県東部、種子島・屋久島地方、奄美群島・トカラ列島、鹿児島県西部、沖縄本島地方、大東島地方、宮古島・八重山地方 |
| 7月30日 18時30分 | 津波警報 | 北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸中部、北海道太平洋沿岸西部、青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、福島県 |
| | 津波注意報 | 北海道日本海沿岸北部、オホーツク海沿岸、青森県日本海沿岸、陸奥湾、茨城県、千葉県九十九里・外房、千葉県内房、東京湾内湾、伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾・三浦半島、静岡県、愛知県外海、伊勢・三河湾、三重県南部、大阪府、兵庫県瀬戸内海沿岸、淡路島南部、和歌山県、岡山県、徳島県、愛媛県宇和海沿岸、高知県、大分県瀬戸内海沿岸、大分県豊後水道沿岸、宮崎県、鹿児島県東部、種子島・屋久島地方、奄美群島・トカラ列島、鹿児島県西部、沖縄本島地方、大東島地方、宮古島・八重山地方 |
| 7月30日 20時45分 | 津波注意報 | 北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸中部、北海道太平洋沿岸西部、北海道日本海沿岸北部、オホーツク海沿岸、青森県日本海沿岸、青森県太平洋沿岸、陸奥湾、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房、千葉県内房、東京湾内湾、伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾・三浦半島、静岡県、愛知県外海、伊勢・三河湾、三重県南部、大阪府、兵庫県瀬戸内海沿岸、淡路島南部、和歌山県、徳島県、愛媛県宇和海沿岸、高知県、大分県瀬戸内海沿岸、大分県豊後水道沿岸、宮崎県、鹿児島県東部、種子島・屋久島地方、奄美群島・トカラ列島、鹿児島県西部、沖縄本島地方、大東島地方、宮古島・八重山地方 |
| 7月31日 10時45分 | 津波注意報 | 北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸中部、北海道太平洋沿岸西部、青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房、伊豆諸島、種子島・屋久島地方 |
| 7月31日 16時30分 | | 発表されていた津波注意報はすべて解除 |

令和7年カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波 概要

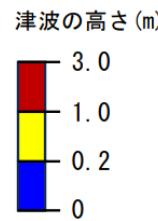
観測値は後日の精査により変更される場合がある

■津波の観測状況



港)は国土交通省港湾局、国)は国土地理院の所属であることを表す。

八丈島八重根、大洗、えりも庶野は巨大津波計。



■主な観測点の観測値

| 観測点名 | 予報区 | 第一波到達時刻 | 最大波発現時刻 | 最大波の高さ |
|------------|------------|----------|----------|--------|
| 港) 久慈港 | 岩手県 | 30日10:47 | 30日13:52 | 141 cm |
| 八丈島八重根 | 伊豆諸島 | 30日11:-- | 30日16:19 | 1.0 m |
| 港) 仙台港 | 宮城県 | 30日11:38 | 30日23:21 | 82 cm |
| 港) 神栖市鹿島港 | 茨城県 | 30日11:21 | 30日20:46 | 81 cm |
| 根室市花咲 | 北海道太平洋沿岸東部 | 30日10:16 | 30日14:56 | 78 cm |
| 港) 十勝港 | 北海道太平洋沿岸中部 | 30日10:33 | 31日01:18 | 71 cm |
| 港) 八戸港 | 青森県太平洋沿岸 | 30日10:59 | 30日14:39 | 70 cm |
| えりも町庶野 | 北海道太平洋沿岸中部 | 30日10:28 | 30日21:14 | 0.7 m |
| 大洗 | 茨城県 | 30日11:17 | 31日02:27 | 0.7 m |
| 国) 相馬 | 福島県 | 30日11:32 | 30日19:01 | 68 cm |
| 港) 下田港 | 静岡県 | 30日11:29 | 31日00:06 | 64 cm |
| 奄美市小湊 | 奄美群島・トカラ列島 | 30日13:19 | 30日16:31 | 64 cm |
| 港) 石巻港 | 宮城県 | 30日11:-- | 30日21:02 | 60 cm |
| 土佐清水 | 高知県 | 30日12:48 | 31日04:07 | 60 cm |
| 港) 浜中町霧多布港 | 北海道太平洋沿岸東部 | 30日10:20 | 30日13:11 | 59 cm |
| 港) 宮崎港 | 宮崎県 | 30日13:04 | 31日05:40 | 58 cm |

港)は国土交通省港湾局、国)は国土地理院の所属であることを表す。

八丈島八重根、大洗、えりも庶野は巨大津波計。

「-」は値が決定できないことを示す。

所属機関の観測波形データをもとに気象庁が検測した値。

令和7年カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波 概要

- 三重県で死者1名のほか、重傷1名、軽傷11名の人的被害が発生。
- 7月30日は全国的に晴れ、津波警報対象地域においても神奈川県や静岡県を中心に30°C～35°C前後まで気温が上昇した。
- 避難所は、1都1道19県で1,826カ所が開設され、38,811人が避難所へ避難した(7月30日16時時点)。

■被害状況等

- 人的被害(令和7年8月1日時点)

| | 死者 | 重傷者 | 軽傷者 | 熱中症 | 熱中症 |
|----|----|-----|-----|-----|---------------|
| 人数 | 1名 | 1名 | 11名 | 12名 | うち中等症 うち軽症 |
| | | | | 2名 | 10名 |

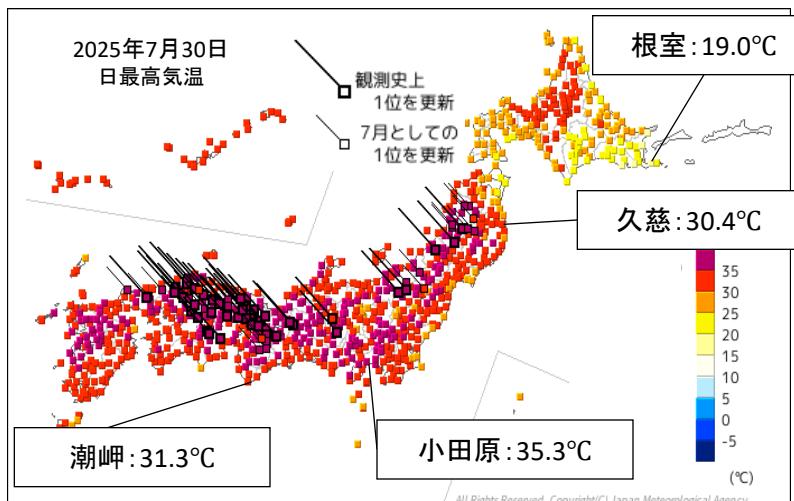
- 住家被害(令和7年8月1日現在)
被害報告なし

- ライフライン被害(令和7年8月1日現在)
被害報告なし



釧路町避難タワーへの避難状況
出典：国土交通省北海道開発局

■7月30日の最高気温の状況



神奈川県逗子市の披露山公園への避難
出典：NHK HPより

令和7年カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波 概要

■熱中症被害

※令和7年8月4日18:30時点

| | | 都道府県 | 市町村 | 年代 | 性別 | 被害概要 |
|-----|----|------|------|----|----|-------------------------------|
| 中等症 | 1 | 宮城県 | 仙台市 | 50 | 女 | 避難所へ避難中、ふらつき等の体調不良を訴える |
| | 2 | 沖縄県 | うるま市 | 6 | 男 | 避難所へ徒歩で向かう途中に気分不良を訴える |
| 軽症 | 1 | 北海道 | 伊達市 | 79 | 女 | 避難後、熱中症の症状が見られたため救急要請 |
| | 2 | 北海道 | 伊達市 | 78 | 女 | 避難後、熱中症の症状が見られたため救急要請 |
| | 3 | 北海道 | 伊達市 | 8 | 女 | 避難後、熱中症の症状が見られたため救急要請 |
| | 4 | 岩手県 | 久慈市 | 90 | 男 | 横断歩道を歩行中に体動困難 |
| | 5 | 岩手県 | 大槌町 | 30 | 女 | 避難者がめまいと吐気を訴えるもの（避難後に症状発症） |
| | 6 | 宮城県 | 仙台市 | 50 | 女 | 避難所で体調不良を訴え救急要請 |
| | 7 | 三重県 | 熊野市 | 3 | 男 | 避難後、熱中症の症状が見られたため救急要請 |
| | 8 | 和歌山県 | 和歌山市 | 20 | 女 | 警報発令に伴い幼稚園から園児を避難誘導後、意識レベルが低下 |
| | 9 | 沖縄県 | うるま市 | 8 | 男 | 避難所へ徒歩で向かう途中に気分不良を訴える |
| | 10 | 沖縄県 | うるま市 | 7 | 男 | 避難所へ徒歩で向かう途中に気分不良を訴える |

津波警報発表に伴う避難等に係る主な報道状況

①指定緊急避難場所等への避難



出典：NHK HPより



出典：NHK HPより

北海道苫小牧市

高台へ避難する車で渋滞が発生

和歌山県田辺市

高台にある市役所に向かう道路で渋滞が発生

②（屋外）指定緊急避難場所の環境



出典：NHK HPより



出典：NHK HPより

炎天下の中、高台に避難した人々

三重県尾鷲市の郵便局

局員が高台へ避難する際に冷却パックを持参

③指定緊急避難場所から指定避難所等への移動



出典：NHK HPより

和歌山県すさみ町

高台の緊急避難場所（屋外）に避難した人をエアコンのある避難所にバスで移送

④帰宅困難



出典：神奈川県大磯町より提供



千代田区

@chiyoda_city

本日カムチャツカ半島沖で生じた地震による津波発生の影響で、一部鉄道が運休しております。

千代田区では、一斉帰宅抑制のために、帰宅困難者一時受入施設に向けて、要請をいたしました。

今後、一時受入施設との調整を行い、帰宅困難者の方の滞在場所を確保してまいります。

出典：千代田区公式Xより

神奈川県大磯町

民間施設に帰宅困難者を一時受け入れ

東京都千代田区

帰宅困難者一時受け入れ施設の開設を要請し、帰宅困難者の滞在場所を確保

避難等にあたって明らかになった課題と今後の方向性

①指定緊急避難場所等への避難

【生じた事象】

- 多くの住民が車で避難し渋滞が発生

【課題】

- 津波避難は徒步を原則としているが、車で避難する人が多い
- 車避難にあたっての考え方や計画が検討されておらず、渋滞が生じる

【好事例】

- 北海道浜中町では、車避難に伴う渋滞が生じないよう、渋滞の原因になる右折をしないよう、避難時には左折をするよう要請し、町の津波避難計画に明示するとともに、訓練により町民にも徹底していたところ。当日も訓練の効果により、車避難による渋滞は生じなかった。

【今後の方向性】

- 車利用時において、地域で安全に避難ができる方策の検討促進（避難訓練含む）



浜中町津波避難計画より抜粋

避難等にあたって明らかになった課題と今後の方向性

② (屋外) 指定緊急避難場所の環境

【生じた事象】

- ・避難中や避難後に熱中症の症状が生じ救急搬送
- ・指定緊急避難場所等においては避難者の人数・状況把握が困難

【課題】

- ・避難中・避難先における熱中症対策
- ・指定緊急避難場所における避難者の状況把握方法

【好事例】

- ・北海道むかわ町の消防庁舎の屋上（指定緊急避難場所）では、日差しを避けるため、テントを2つ設置し、日陰で暑さをしのいだ
- ・千葉県一宮町では、津波警報等の発表時に自動飛行ドローンを用いて避難広報を行ったほか、職員を派遣せずに海岸利用者の避難状況を確認した

【今後の方向性】

- ・指定緊急避難場所に熱中症対策の備蓄や施設整備を推奨
- ・避難グッズに熱中症対策の備蓄等を用意した非常持ち出し袋の備えを啓発
- ・デジタルツール等を活用した指定緊急避難場所における避難者の把握及び関係者間の共有



北海道むかわ町 消防庁舎 出典：NHK HPより



千葉県一宮町 ドローンによる映像
出典：千葉県一宮町より提供

③指定緊急避難場所から指定避難所等への移動

【生じた事象】

- ・津波警報が、炎天下の中、長時間継続したため、津波警報発表中ではあったが、暑さを凌ぐため、屋内のより環境が良い指定避難所等への移動が行われた

【課題】

- ・津波警報発表中において、最初に避難した指定緊急避難場所から別の指定避難所等に、避難する際の安全確保のあり方

【今後の方向性】

- ・大津波警報や津波警報発表中の移動は可能な限り避けるべきではあるが、避難が長時間にわたり、健康上のやむを得ない事由等により、津波来襲のリスクを踏まえた上でも緊急的に移動が必要な場合には、津波の発生状況をスマートフォン等で確認するなど、最大限、避難者の安全を確保したうえで、津波リスクが低い安全な経路での移動

ガイドライン等への反映イメージ(案)

指定緊急避難場所等への避難

徒歩避難が原則であることを周知するとともに、各地域において津波到達時間や指定緊急避難場所までの距離、要配慮者の存在、避難路の状況等を踏まえて、やむを得ず自動車により避難せざるを得ない場合には、交通渋滞による逃げ遅れが生じないよう、地域による自動車利用の選定や避難経路の確保、駐車スペースの拡充など、あらかじめ安全に避難できる方策を検討し、平時から避難訓練を行うなど住民等の円滑な避難確保に努めるものとする。

(屋外)指定緊急避難場所の環境

避難が長期化することも想定し、指定緊急避難場所の熱中症対策および防寒対策として、テントや飲料水、防寒具、非常食、簡易トイレなどの備蓄品を可能な範囲で備えることや施設整備を推奨する。

また、平時から個人で飲料水や体を冷やす冷却グッズなど備蓄品を用意した非常持ち出し袋の備えを呼びかけるなど自助を促す。

民間施設を避難場所として活用する場合においては、空調設備環境の確保や備蓄の提供など、施設管理者との連携強化に努めるものとする。

指定緊急避難場所から指定避難所等への移動

大津波警報や津波警報発表中における移動は可能な限り避けるべきではあるが、避難が長時間にわたり、健康上のやむを得ない事由等により、津波来襲のリスクを踏まえた上で緊急的に移動が必要な場合には、津波の発生状況をスマートフォン等で確認するなど、最大限、避難者の安全を確保したうえで、津波リスクが低い安全な経路で移動するものとする。